

かんようく い・み
慣用句の意味を、ア・イ・ウから えらんで ○ を つけましょう。

① あし ぼう
足が棒になる

ア ひ・み・つを、ひと・は・なに 話さない。

イ 言いっては いけない ことを、うっかり 言いってしまう。

ウ なが ある た あし
長く 歩いたり 立ったり して、足が とても つかれる。

② あし ひ
足を引っぱる

ア あつかい方が 分わからず、こまる。

イ ひと
人の じゃまを して、うまく いかにくする。

ウ なが ある た あし
長く 歩いたり 立ったり して、足が とても つかれる。

③ あし で
足が出る

ア みんなが、同おなじ こと を 言いう。

イ ひと
人の じゃまを して、うまく いかにくする。

ウ つか かね ようい かね おお
使った お金が、用意した お金より 多おほく なる。

④ くち
口をそろえる

ア どうなるかと、はらはらしながら 見み守もる。

イ つか かね ようい かね おお
使った お金が、用意した お金より 多おほく なる。

ウ みんなが、同おなじ こと を 言いう。

⑤ て あせ
手に汗をにぎる

ア どうなるかと、はらはらしながら 見み守もる。

イ 言いっては いけない ことを、うっかり 言いってしまう。

ウ ひと
人の しごとを 手て伝つう。

⑥ て か
手を貸す

ア ひと
人の しごとを 手て伝つう。

イ ひ・み・つを、ひと・は・なに 話さない。

ウ あつかい方が 分わからず、こまる。

